

博士論文

予備校生のもつビリーフとストレスに関する研究
—ビリーフ尺度の作成とソーシャルサポートとの関連から—

2022 年度

竹内 利光

東京成徳大学

論文概要

本研究は、(1)予備校生のもつビリーフを明らかにして、(2)ビリーフとストレスラーの認知(研究1)、ストレス対処方略、ストレス反応の関連性について検討し(研究2,3,4)、(3)予備校生の受けるソーシャルサポートが、ビリーフ、ストレス反応にどのような影響を与えるのかについて検討すること(研究5)を目的とした。

研究1では、予備校生ビリーフ尺度の作成および信頼性・妥当性の検証をおこなった。「周囲へのサポート要求」「受験勉強への集中」「周囲への義務感」「受験失敗への過剰な評価」の4因子からなる尺度が構成され、信頼性および一定の因子的妥当性、構成概念妥当性、基準関連妥当性が確認された。

研究2では、予備校生764名を対象に、質問紙による調査研究を行い、予備校生ストレスラー尺度の作成および信頼性・妥当性の検証を行った。「学業ストレスラー」「親ストレスラー」の2因子からなる尺度が構成され、信頼性および一定の因子的妥当性・構成概念妥当性が確認された。研究3では、予備校生764名を対象に、研究1で作成した予備校生ビリーフ尺度、研究2で作成した予備校生ストレスラー尺度を用いて、ストレスラー認知、予備校生のビリーフ、ストレス反応の関連性の検証を行った。ストレスラー認知、ビリーフ、ストレスラー認知とビリーフの交互作用項を独立変数、ストレス反応を従属変数として階層的重回帰分析を行った結果、ビリーフがストレスラー認知に影響を与え、ストレス反応が強くなることが示唆された。また、研究4では、予備校生のビリーフ、ストレス対処方略、ストレス反応の関連性の検証を行った。予備校生ビリーフが、ストレス反応に及ぼす影響について、ストレ

ス対処方略が媒介しているモデルを想定して媒介分析を行った結果、ストレス対処方略の媒介効果が確認された。

研究 5 では、予備校生 524 名を対象にした質問紙による調査研究を行い、ビリーフと知覚されたソーシャルサポート、ストレス反応の関連性を検証した。ビリーフとソーシャルサポート、ビリーフとソーシャルサポートの交互作用項を独立変数、ストレス反応を従属変数として階層的重回帰分析を行った。その結果、ビリーフが弱い場合において、ソーシャルサポートがビリーフに影響を与え、ストレス反応が強くなることが示唆された。